



「自画像」2017年

い ま  
石井克の現在  
2022.8.24 (水) ~ 9.4 (日)

■アクセス■

- ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩 12分・JR 両毛線足利駅徒歩 8分
- ・北関東自動車道足利IC より 15分  
(駐車場 3台あり・近隣にも無料駐車場あり)
- 11:00~18:00 (最終日は 16:00 まで)  
月・火曜休廊 (月・火が祭日の場合は営業し、翌日休)
- 軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>

1997年8月、石井克は、テレジンのナチスドイツ強制収容所跡を訪れた。アウシュビッツやビルケナウなどの「絶滅収容所」への中継点だった場所だ。その後石井は二回この地を訪ねた。今回の出品作には、この体験が元になっているものも含まれている。

そのような場所に立った時、人は何を思うだろうか。罪なくして虐殺された多くの人たち、大量殺戮に直接、間接に手を下した人たち—殺されたのも、殺したのも同じ「人間」であることに戦慄を覚える。人は加害者にも被害者にもなる。私はどちらにもなりたくない。そのような思いに駆られたとき、石井の作品は示唆に富む。

今回の出品作に、ARBEIT MACHT FREI(働けば自由になれる)という文字が記されたものがある。これはナチスによる偽りのプロパガンダであり、アウシュビッツ同様、テレジンの収容所の門にも掲げられている。本作には、その門からおぞましい生きものめいたものが出てくる様子が描かれている。頭部が肥大した多足の「それ」はかつて人だったのかもしれない。「それ」に踏みつけられつつも、小鳥は生き、花も咲いている。命の芽生えに、絶望における希望の光を見る思いがする。「絶望」は殺された人々の思いに他ならないが、同時にナチスを体験してしまった今を生きる私たちの「絶望」でもある。おぞましい「それ」は私たちの内にも生きているのだ。これをどう克服するか。深い森の緑の中で、小さな生きものと共生することにより、良きものへと変容できるかもしれない。だからと言って殺戮と虐殺の記憶は消えないし、消しようがない。そのどうにもならない思いを鎮める力が石井の「緑」にあると思う。

江尻 潔 (足利市立美術館次長)



「森」(部分)  
2018年



「TERESEN」(部分)  
2022年



「自画像」2021年

## ■コンサート■



### ～ひと夏の想いで～

石井 滯 (ソプラノ)  
石川 雅代 (ピアノ)

■やなせたかし [愛の歌] より  
ひばり 他

■8月28日(日) 14:30～  
定員 25名 (要予約)  
1,500円 (ワンドリンク付き)



## 石井 克 Katsu Ishii

1941年茨城県水戸市に生まれる。1961年群馬県美術展 入選。78年同协会会员となる。1963年二紀展 入選(～70年)。二紀選抜百人展 出品。1965年群馬大学学芸学部美術科 卒業。1966年日本版画集団展 出品(～72年)。1970年日本アンデパンダン展 出品(～1993、2013～19年)。1972年自由美術展 入選。佳作作家。78年会員となる。1984年東京展 出品(～94年)奨励賞、東京展賞受賞。1985年群馬版画協会展 出品(～2019年)。1994年宮地佑治と二人展 開催(～2015年)。1998年日本アンデパンダン展企画「今日の間人像」出品。2013年九条美術展 出品(～19年)。2014年自由美術展「鬚光賞」受賞。2015年R293美術展 出品(～19年)。2016年「石井壬子夫・石井克一父と子の自画像展(広瀬川美術館)」開催。2019年「久叡館コレクション展」「石井克個展(石井画廊)」。2020年「石井克の鳥展(artspace & café)」「桐生市有隣館ビエンナーレ」出品。

■現在 自由美術協会会員、日本美術会会員、群馬県美術会会員。

■著作 「生きること描くこと」(国土社・1987年)  
「埴輪になった僕」(煥乎堂・2001年)  
「表現と自立」(一葉書房・2006年)



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/

